

日本語



International Resort

Niseko

ニセコエリアナビ

AreaNavi

winter

= 倶知安町観光ガイド
=



倶知安町

日本語



International Resort

Niseko

ニセコエリアナビ

AreaNavi

summer

= 倶知安町観光ガイド
=



倶知安町

Contents

International Resort

Niseko
AreaNavi

倶知安町について	2
くっちゃんの歴史	3
くっちゃんの気候	5
くっちゃんの自然散策 ～ニセコアンヌプリ・イワオヌプリ～	6
くっちゃんの自然散策～羊蹄山～	7
くっちゃんの自然散策～半月湖～	9
くっちゃんの自然散策～鏡沼～	10
くっちゃんの川遊び	11
夏のアウトドアアクティビティ	13
くっちゃんの花々	15
くっちゃんの芸術・文化	17
インドア体験	18
くっちゃんのお土産	19
イベント情報	21
ワーケーション	23
宿泊施設 コンドミニウム / ヴィラ・コテージ	24
宿泊施設 ホテル・ペンション	25
日帰り温泉ガイド	27
ふるさと納税	28
交通アクセスガイド	31
倶知安LINE / NISEKO NOW! / Nisekoアプリ	34
ニセコエリア全山マップ	37
くっちゃんのスキーリゾート～ニセコHANAZONOリゾート	39
～くっちゃんのスキーリゾート～ニセコ東急グラン・ヒラフ～	41
冬のアウトドアアクティビティ	43
くっちゃんの冬	44
くっちゃんのエイローページ	

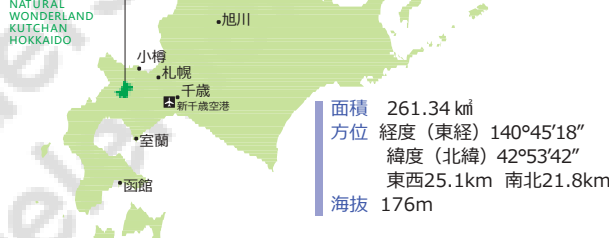
倶知安町は、富士山に似た姿から蝦夷富士とも呼ばれる「羊蹄山」とニセコアンヌプリを主峰とするニセコ連峰に囲まれ、清流尻別川が流れる、自然豊かな町です。

夏は、尻別川でのラフティング、羊蹄山麓でのサイクリング、登山、ゴルフなどのアウトドアスポーツの人气が高く、近年は夏を涼しく過ごす長期滞在者も増えています。豊富な羊蹄山の伏流水を利用し、じゃがいもやメロン、アスパラガスなどの農業も盛んです。

「スキーの町宣言」をした倶知安町は「東洋のサンモリッツ」とも呼ばれるスキーの聖地で、冬になると日本だけでなく世界各国から多くのスキーヤーやスノーボーダーが、上質なパウダースノーを楽しみに訪れます。

位置

倶知安町

NATURAL
WONDERLAND
KUTCHIVAN
HOKKAIDO

面積	261.34 km ²
方位	経度 (東経) 140°45'18"
	緯度 (北緯) 42°53'42"
	東西25.1km 南北21.8km
海拔	176m

町章

雪の結晶のイメージと羽ばたく鳥のイメージで 倶知安町の頭文



字「K」を図案化したものです希望をもって未来へ羽ばたき発展・躍動するふれあいの町、倶知安」を象徴しています。

町花

「キバナシャクナゲ」は北海道・東北の高山に自生する常緑の小型灌木で、7～8月頃に黄色い5枚の可憐な花びらをつけます。羊蹄山、ニセコ山系の代表的な高山植物であることから選定されました。



町木

「イタヤカエデ」は、カエデ科の落葉樹で秋になると7枚にくびれた葉が黄葉します。倶知安町周辺に広く分布し、スキー普及の初期、スキー板の材料となったことから選定されました。公園や街路樹に広く利用されています。



町名の由来

クッチャンはアイヌ語の「クツシャニ」から転訛して名付けられました。クツシャニは「くだの(ようなところ)を・流れ出る・ところ」の意です。明治26年公示。漢字をあてたのは当時の北海道庁参事官白仁武です。

イメージキャラクター

特産のじゃがいも(男爵)から生まれたキャラクターです。三角形のスキー帽は、羊蹄山をイメージしています。じゃが太くんは町で盛んなスキーを、じゃが子ちゃんはスノーボードをしています。



倶知安の街と羊蹄山





開拓の歴史

日本書紀によると、西暦659年、阿倍比羅夫が軍船180隻を率いて蝦夷を討ち、後方羊蹄に郡領を置きました。幕末には、松浦武四郎がエナヲ峠（現倶知安峠）を越えて、ソースケ（現ソースケ川）に至った、とあります。

倶知安の開拓の歴史が始まったのは明治時代です。徳島県からの開拓者が共同出願組合を設立し、明治25年5月にクッチャン原野に入り、この時が倶知安町の開基とされています。

ドロやアカダモ、ナラなどがうっそうと茂り、目の羊蹄山も見えないほどの原生林、原野を切り開き、明治26年倶知安村が設置されました。

明治30年代には、人口1万5千人になり、北海道鉄道（現JR函館本線）も開通し、明治43年には後志支庁（現後志総合振興局）もおかれました。

大正5年には町政が施行され、倶知安町が誕生しました。

スキーの歴史と東洋のサンモリッツ

日本にスキーを広めたことで名高いオーストリア人のレルヒ中佐が倶知安町を訪れたのは明治45年のことでした。

明治44年に新潟県高田に着任したレルヒ中佐はスキーを取り寄せ、軍人や県下の中学校の教員にスキーの講習を始めました。スキーは冬のスポーツとして人気を高め、レルヒ中佐はスキー指導者として全国に知れ渡っていきました。

そのレルヒ中佐が羊蹄山に登ることになり、倶知安町では町を挙げて彼ら登山隊一行を歓迎しました。



蝦夷富士スキー登山直後のレルヒ中佐 写真提供：日本スキー発祥記念館（上越市）

4月16日に小黒の山（現在の旭ヶ丘スキー場付近）でスキーのデモンストレーションを行い、初めてスキーを見た人々は目を見張り、喝采を送ったそうです。翌17日、レルヒー行は羊蹄山に登頂し「日本空前の快挙、スキー登山大々の成功」という見出しが新聞を飾り、蝦夷富士羊蹄山とスキーの名は多くの人の記憶に刻まれることとなりました。

大正時代になると、北海道大学や小樽商科大学などのスキー部がニセコ周辺で合宿を行い、ニセコアンブリヤやイワオブリなどにスキー登山を繰り返し、スキー＝ニセコというイメージが定着していきました。

昭和36年、ニセコひらふスキー場（現ニセコ東急 グラン・ヒラフ）にニセコエリア 初となるスキーリフトが完成したのを皮切りに次々にスキー場が開設されました。昭和37年に全日本スキー大会、45年と61年にスキー国体が開催され、倶知安町はスキーの聖地としての地位を揺るぎないものにしていきました。

昭和2年スイスのサンモリッツで開催された冬季オリンピックに日本人が初めて参加しました。同年冬の北海道視察とスキー練習を兼ねて秩父宮が来道し、ニセコエリア（現在の昆布温泉郷付近）でスキーを楽しんだ様子が、小樽新聞（北海道新聞の前身）で「極東のサンモリッツに最後の御思出霊泉に恵まれた好スロー プは3日間」という見出しで報道されました。これが倶知安町を「東洋のサンモリッツ」と形容したルーツになっているようです。

長年サンモリッツとの姉妹都市提携を思い描いていた当時の高橋倶知安町長は、昭和39年札幌冬季オリンピック誘致運動の一員として訪欧した際に、サンモリッツのプレジデント（日本でいう市長や町長）に会見を申し込み、姉妹提携の話は快諾されました。町長に同行していた男性が差し出したハンカチにプレジデントらがサインをする、というユニークな調印となったそうです。

以来、倶知安町とサンモリッツは永久の友情を誓い、交流が続いています。



“TOP OF THE WORLD”と書かれたサンモリッツのマーク。厳重に管理されているサンモリッツのマークですが、倶知安町では商業目的以外への使用を許可されています。

レルヒ中佐が倶知安町でスキーを滑って約110年後の今、ニセコエリアの極上パウダースノーは世界に知られるようになり、オーストラリアをはじめヨーロッパやアジア各地から多くの人を訪れるようになりました。



レルヒ中佐の像（レルヒ記念公園）

季節の移ろいが明瞭な 倶知安の四季

夏はさわやかな高原気候、冬は日本国内でも有数の豪雪地域という特徴があります。

春(4～6月)は、さわやかな気候。新緑と花に包まれます。気温は10度前後で桜の開花は5月上旬になります。

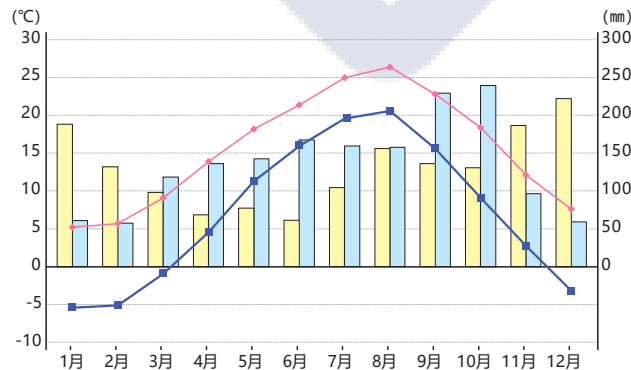
夏(7～8月)は、雨が少なく、平均気温が20度前後まで上がります。7月上旬には高山植物が見頃となります。

秋(9～10月)は、ひと雨ごとに気温が下がり、氷点下になることもあります。9月には紅葉がはじまります。

冬(11～3月)は、気温が氷点下20度前後まで下がることもあり、パウダースノーとも呼ばれる粉雪が2m近く降り積もります。

(気象庁HPより)

	倶知安平年値気温	東京平年値気温	倶知安平年降水量	東京平年降水量
1月	-5.4	5.1	184.5	59.7
2月	-4.9	6.1	129.4	56.5
3月	-1	9.4	98.3	116
4月	4.9	14.3	67.1	133.7
5月	11.2	18.8	75.8	139.7
6月	15.6	21.9	59.9	167.8
7月	19.7	25.7	102.3	156.2
8月	20.6	26.9	153.1	154.7
9月	16.4	23.3	133.3	224.9
10月	9.7	18	128.2	234.8
11月	2.9	12.5	182.8	96.3
12月	-3.1	7.7	217.7	57.9



ニセコの自然を肌で感じる 登山・トレッキング

羊蹄山から見るニセコの山々

美しい山々に囲まれた倶知安町の周辺は、初心者から上級者まで楽しめる登山コースが豊富。

特に日本百名山にも選定されている羊蹄山(後方羊蹄山)は全国から多くの登山者が訪れる北海道でも屈指の名山。

四季の景色が楽しめる自然の中でリフレッシュしましょう!

■ ニセコアンヌプリ (標高1,308m)

冬期はニセコスキー場として多くの人に愛されるニセコアンヌプリ。夏期は初心者でも登りやすい登山コースとして利用されています。山頂部は広い裸地となっていて目の前に美しい羊蹄山や洞爺湖、日本海、太平洋の海まで望むことができます。



運が良ければ雲海に出合えるかも

- 五色温泉コース
標高差558m
登り: 1時間30分 下り: 1時間10分

- ニセコアンヌプリゴンドラコース
標高差: 330m
登り: 1時間 下り: 50分
※ゴンドラは夏期間限定
※運行状況をご確認ください

- ニセコ東急 グラン・ヒラフコース
標高差980m
登り: 3時間30分 下り: 2時間40分

■ イワオヌプリ (標高1,116m) ・五色温泉郷

硫黄の山という意味を持つイワオヌプリ。広いガレ場となっている山道からはニセコの山々や大沼、日本海を望むことができ、ニセコアンヌプリと並んで初心者でも登りやすい山のひとつ。イワオヌプリを出発してニセコ山系を巡る縦走コースもあります。麓の五色温泉郷は登山者でなくても気軽に散策することができます。秋は紅葉が美しい場所です。



秋のイワオヌプリからの景色

- 五色温泉コース
所要時間: 登り: 1時間10分 下り: 1時間
標高差: 320m



羊蹄山
標高 1,898m
面積 6,826ha

蝦夷富士として親しまれ、北海道を代表する山の一つ

羊蹄山は、その頂上に周囲約2kmの楕円状の火口があり、富士山に似た姿から蝦夷富士とも呼ばれています。7月上旬から8月上旬には標高約1,700m以上で100種類以上の高山植物が花を咲かせ国の天然記念物に指定されています。また、キタキツネ、エゾモモンガ、エゾリス、シマリス、エゾキウサギなどの哺乳類や多くの野鳥が生息しています。

羊蹄山避難小屋

登山者の事故防止と緊急時の避難を目的として建てられた最大収容人数40名の木造2階建ての避難小屋です。小屋の位置は倶知安ひらふ・真狩両コースの9合目を結ぶ連絡路の途中にあります。6月中旬～10月中旬まで登山植物監視員が常駐しています。



小屋開き 6月第2土曜日
小屋閉め 10月第1日曜日
宿泊料 要問い合わせ

レンタル 毛布、寝袋
(料金は要問い合わせ)
定員 宿泊20名程度
※緊急時40名

休憩料 要問い合わせ

- 避難小屋の利用に予約は必要ありませんが、宿泊予定の方は人数把握の為、可能な限り倶知安町役場観光商工課 (TEL.0136-23-3388) にご連絡ください。
- 避難小屋に売店はありません。水や食料は必ず持参してください。
- 宿泊予定の方は、日没1時間前までに小屋に到着するようにしてください。
- 管理人常駐期間中は、避難小屋周辺気象や高山植物情報をHPで定時更新を行っています。 <https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/>
- 使用済みトイレトイレットペーパーを含めた全てのゴミを必ず持ち帰りください。

羊蹄山登山記念バッチ

2021年モデル

避難小屋と倶知安町役場・まちなか駅からついで数量限定販売！
郵送による購入も可能です。



郵送を希望する方は、現金書留にバッチ代×希望個数の合計金額、返信用切手※を貼った封筒、送付先、お名前、電話番号を記載したメモを同封の上、下記住所へ送付願います。

〒044-0078 北海道虻田郡倶知安町羊蹄山41-5 サン・スポーツランドくっちゃん内
倶知安町役場 観光商工課 羊蹄山管理保全連絡協議会 宛

※返送料は送料別で494円、それ以上は倶知安町役場観光商工課 (TEL.0136-

[登山コース]

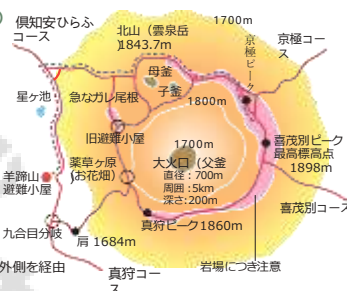
登山ルートは4つ
倶知安ひらふ・真狩からのルートの利用が主流です。

[山頂部及び火口]

[外輪までの所要時間の目安]

	登り	下り
倶知安ひらふコース	4時間20分	3時間10分
真狩コース	4時間30分	3時間10分
京極コース	4時間10分	3時間
喜茂別コース	4時間20分	2時間50分

● 避難小屋→倶知安ひらふコース分岐→母差、子差外側を經由→京極コース分岐→山頂 ● 所要時間：約1時間



倶知安ひらふコース登山道

最初は比較的ゆるやかな林間コースですが、20～30分で急に傾斜がきつくなります。この急傾斜がわずかにゆるくなると1合目半の風穴に通ります。エゾマツやタケカンバの廊下を通り、ハイマツのトンネルを抜けると7合目です。8合目からはガレ場なので足元に注意してください。9合目からは、右へ避難小屋、左は北山を経て最高点へ至ります。



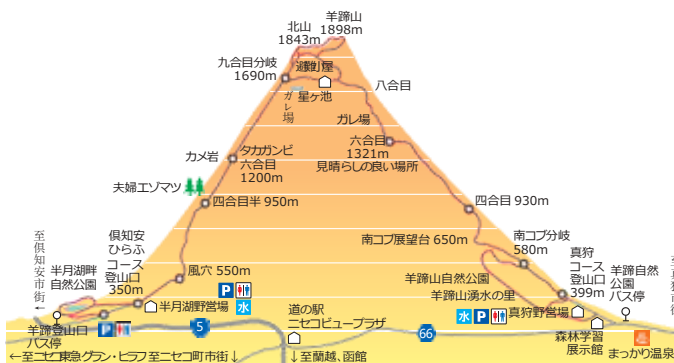
倶知安ひらふコース登山口

真狩コース登山道

4合目からは傾斜が急にきつくなり、ジグザグの道です。標高1,600mの8合目からは山頂から南西にのびる尾根を巻き、空沢のガレ場を通過します。一部にはロープもありますが、足場には十分注意をしてください。9合目近くは高山植物が多く見られます。左は避難小屋へ、右は大火口壁のゴルへ出ます。南東の火口壁はやせている上に岩場なので要注意です。



真狩コース登山口



倶知安ひらふコースの登山口には半月湖野営場 (P.9・P.13) があり、キャンプが可能。1泊して次の日早朝に出発することもできます。また半月湖の周りぐるりと歩く散策路 (P.9) もあります。

問い合わせ先 倶知安町役場観光商工課 TEL.0136-23-3388